

日中親族語彙の比較から考察する  
漢字表記の類似性について

山内 智恵美・蘇 氷

A contrastive study : similarities in kanji between  
Chinese and Japanese vocabulary  
for family and relatives

YAMAUCHI Chiemi, SU Bing

摘要

本文意在通过观察日中亲属称谓语汇的异同，考察日语是否接受采纳了汉语的亲属称谓方式。由于日语同样使用汉字，很多语汇与汉语一模一样，好像是原封不动地移植了汉语语汇，但这些仅仅是表面现象，事实完全相反。简而言之，日语没有接受汉语亲族称谓的内在精神和实质，与其说日语与汉语相同，不如说和英语等西方语言相近。

目次

- 一、問題の提起
- 二、煩雑且つ精密 vs. 簡略且つ曖昧
- 三、内外有別 vs. 内外同一
- 四、世代基準 vs. 年齢基準
- 五、まとめ

## 一、問題の提起

本論は日中両言語の親族呼称の語彙比較を通して、その類似性の本質を考察するものである。中国語の親族呼称がなんとも複雑であることについては、中国語の学習歴がある人であれば誰もが感じたことがあるであろう。言語学の碩学達もこの点については、相当な時間と労力を割いて紹介しており、本論はこの点については考察を試みない。また日中親族呼称の比較研究については、既に多数の論文が発表されているが、これら論文の関心は主に日中二者の具体的な異同に集中しており、二者の本質的な差異や差異が生じた理由には及んでいない。例えば、本論の付表1・7が示すように、表面上の漢字表記を見ただけでは、日本語は中国語の表現形式を受容した、或いは中国語から親族呼称を受容したことがある、と安易にひとりで考えてしまうが、そうであろうか。日本語の親族呼称に中国語からの影響があったのかどうかの検証を行う必要が生じる。つまり、筆者が関心を持っているのは、中国語ではなく、日本語の親族呼称が中国語からどの程度影響をうけたかという問題である。本論では日中両言語の分析や比較を行うにあたり、適宜英語の呼称についても比較資料として使用する。

まず、常用される日英中三言語の親族呼称表、表1をみてみよう。ゴシック体太字は、日本語と中国語の親族呼称が完全に一致する部分である。一見すると英語表記は全く別世界のものであり、この表をみる限りにおいて、誰もが次のような印象を持つ。つまり、日中親族呼称表記はほぼ完全に一致しており、反面、日英或いは、中英はまったく異なるものである、という印象である。しかるに本文は、この表面的な現象から本質を見抜こうと試みるものである。考えてみたいのは、日本文化は儒教の影響を受けたことから、中国語に含まれる親族意識も受容したと考えられている点である。本当にそうであろうか。本論はこの点において検証を試みるものであるが、筆者は言語学の専門家ではないため、言語学的知識に欠ける面も多いかもしれないが、比較文化の観点から問題を提起できればと考える。

## 二、煩雑で精密 vs. 簡略で曖昧

表1は、日英中の親族呼称をごく簡単にまとめた表である。中国語における実際の状況は、到底このように簡単なものではない。中国における主要な親族関係をまとめた表3を見てみよう。この表は、中国の親族呼称が如何に複雑かを明らかにしている。より正確には、親族呼称の語彙が如何に発達しているかを明らかにしている。しかし、これでもただ単に主要な親族を列挙したにすぎず、表5や表6のように傍系親族や婚姻親族を加えれば、表3の紙面が大幅に増大していく。

表3に比べ、表2の日本語の親族呼称はかなり簡単である。ではこの両者の差は如何なる点にあるのか。或いは「呼称語彙の発達」とは何を意味しているのか。まず簡単な例を挙げてみよう。日本語で「あの人は私のいとこだ」と表現した時、「私」と「いとこ」が親族系列のどの位置にあるか、詳しくはわからないが、中国語であればすぐに理解できる。つまり、「いとこ」と表現される可能性を持つ単語が、中国語の中には16通り存在する。ゴシック体太字は、この16通りを示している。中国語の中には、性別や長幼が曖昧で総称的な役割を持つ「いとこ」のような呼称は存在しないため、個々の呼称から、直ちに本人とこの個人との関係が明確になる。例えば「彼女は私の“姨表姐”だ」と言えば、「彼女」が「私」の母親の姉妹の娘で、「私」より年上であることがわかる。「彼は僕の“姑表弟”だ」と言えば、「彼」は「私」の父親の姉妹の息子で、「私」より年下であることがわかる。

姑父		姑母		伯父 ／ 叔父		伯母 ／ 叔母		舅父		舅母		姨父		姨母	
<b>姑表兄</b>	<b>姑表姐</b>	<b>姑表弟</b>	<b>姑表妹</b>	<b>堂兄</b>	<b>堂姐</b>	<b>堂弟</b>	<b>堂妹</b>	<b>舅表兄</b>	<b>舅表姐</b>	<b>舅表弟</b>	<b>舅表妹</b>	<b>姨表兄</b>	<b>姨表姐</b>	<b>姨表弟</b>	<b>姨表妹</b>

これに対し日本語の「いとこ」にも漢字表記が存在する為、漢字表記を用いて、例えば「いとこ」を「従兄弟」「従姉妹」「従兄妹」「従姉弟」或いは「従

兄」「従姉」「従弟」「従妹」と書けば、本人との上下関係が明白になると考える人がいるだろう。この考えは一見筋が通っているようだが、実は状況を的確に判断していない。その理由は、まず日本語の場合漢字で如何に表記するかは別として、これらの発音はすべて「いここ」であり、聞いただけでは全く区別できない。第二に、日本語の漢字表記は存在するが、若者を中心に漢字で表記する人は、次第に少なくなって来ており、「いここ」を「従妹」と書くことで、中国語表記のような本人との関係性（本人より年下の女性）を意識的に表わそうとする人は、より少ないと考えられる<sup>1)</sup>。第三に、仮に「いここ」を「従兄」「従姉」「従弟」「従妹」と表記できたとしても、中国語の16通りの呼称と比べれば4分の1であり、本人との関係性を精確に表せるかどうかという点においては、依然としてレベルが低いからである。

中国語の親族呼称は、なぜこのように発達したのであろうか。この間については社会言語学者が、語彙の発達はそのものの発達ではなく、ただ単なる意識の発達にすぎない、と以前より明確に指摘している。遊牧民族が牛馬羊に関する語彙を発達させているのは、遊牧民族の文化から来たものであり、日本では、魚に関する語彙が発達しているが、内陸や砂漠地帯では、このような語彙の出現すら想像することができない。中国文化は「食の文化」と言われており、その料理法は極めて発達している。例えば、日本語の「炒める」という一つの単語が、中国語の中では、炒める時間の長短、用いる油の多少、火力の強弱によって、“炒”“煎”“焼”“焗”“熘”“爆”“炆”など多種に分けられている。誰もが知っているように人は社会的動物であり、各自には自分の肉親が必ず存在し、万事人が群れる所には、必ず親族関係が存在す

<sup>1)</sup> 現在の日本人、特に若者が漢字呼称をあまり使用していないことを検証するために、筆者は表4を使ってアンケート調査を行った。概略は100名の大学生に日本語の親族呼称について知っているかどうか、また実際に使っているかどうかなどについて複数回答形式で尋ねた。その結果、漢字を使用する割合は僅かであるという結論を得た。例えば、平仮名の「いここ」の使用頻度は81%であるのに対し、漢字を用いた場合は最大14%という結果であった。詳しくは『教職課程センター紀要』第1号第143-145頁（大東文化大学）を参照されたい。

る。但し、親族関係に対する重要性や意識の程度差によって、異なる民族間において、親族呼称語彙の発達にその程度の差が見られる。宗法制度、祖先崇拜意識の発達によって、漢民族は親族関係に関する語彙が異常に発達し、高度で精確な体系が出来上がったといえることができる。馮漢驥はその原因を、以下のように指摘している。「中国の全体的な社会構造が“扩大家庭”という組織の基礎の上に成り立っているわけであり、扩大家庭とは、その内部にいる各メンバーがシステム化し、互いに繋がりを持った基礎の上に成り立っているわけである。社会が全体的にうまく機能を発揮するためには、個人間にある権利と義務を表示し規定する親族制度が、まず調整されなければならない。その観念が後に儒学によって更に発展させられ、親族関係が各時代の興味深い関心課題となった。」<sup>2)</sup>そこで、漢代の『爾雅』に始まり、各時代に親族呼称を研究する碩学が多数現れ、多種にわたる親族呼称の辞典が出版されたのである。これは、その他の民族においては、容易には想像し難いことである。

しかるに本文の最初に述べたように、本論の関心事項は中国語ではなく、日本語である。日本語が中国語の漢字表記を借用したが、日本語の親族呼称は和語であり、漢字の借用は単なる借用であり、根本的には中国語の親族呼称の影響を受けることなく、親族呼称がさほど発達することがなかったことも当然である。漢字を使用したことによって、このシステムは表面上中国語と類似したが、本質は、英語等欧米諸国言語と大体同じである。昨今漢字使用を放棄し、多くの人々が外来語を多用するようになってきているように、日本語のシステムは次第に英語に似通って来ている。

また日本人の多くが現在「いとこ」を使い、「従兄弟」や「従姉妹」を使

<sup>2)</sup> 馮漢驥『中国親属称谓指南』第1頁（上海文芸出版社 1989年）。原文は「因為中国的整個社会結構都建立在“扩大家庭”組織的基礎之上，而扩大家庭又建立在其内部成員系統化了的相互關係的基礎之上。如果整個社会的結構要協調地發揮作用，那麼，表述和規定個人之間的權利和義務的親属制度必須首先得到調整。這種觀念後來被儒学進一步加以發展，因此，親属關係就成了各個時代都感興趣的課題。」筆者訳、この後ことわりのないものは筆者訳とする。

わないのは、口語と書き言葉の違いである、と指摘する人がいるかもしれないが、この指摘も的確ではない。中国語にも当然、口語と書き言葉の区別は存在する。もちろん表1、表5、表6の語彙は書き言葉、つまり辞典用語と言える。日常生活においてよく使うのは口語語彙であるが、口語における呼称語彙にも、中国語には、厳格さと精確さを併せ持つ体系が存在する。比較的口語的な表3と正式呼称の表5を比べて見れば、口語にも同様に精確な性別、長幼、上下関係を表わすシステムが作られていることがわかる。例えば、“叔母”“舅母”は書き言葉であり、北方人が口語でよく使うのは“嬭子”“妗子”である。当然語彙は異なるが、同様に二人の親族内の位置関係は明確に区別されており、混乱を招くことはない。これは、日本語の書き言葉としての「叔母」「伯母」の語彙と口語で表現する「おば」と明らかに異なる点である。つまり、口語であれ書き言葉であれ、中国語の親族呼称語彙は性別、長幼、親族系統の位置を明確に表す役割を果たしているが、日本語の書き言葉は次第に使われなくなっている、と言える。

### 三、内外有別 vs. 内外同一

「簡略」「曖昧」という言葉は抽象的な表現であり、日本語がどのような方向で、どのような面において、複雑さと精確さをあわせ持つ中国語親族呼称システムに比べ、簡略化されているかを考えてみたい。逆に言えば、中国語の親族語彙が、なぜあれほどの複雑さと精確さを要求するのであろうか。当然その目的の一つは、宗法制度における姓の伝承システムを強調することにある。

周知の通り、中国伝統文化の基本的な特徴の一つは、宗法意識が長く続き衰えていないことである。宗法制誕生の歴史は、遡ること非常に古い。宗法制本来の目的は貴族の政治特権、爵位、財産権を維持し、分散或いは目減りしないようにすることである。宗法制を維持することは、統治階級内部の秩序を保ち、政治統治能力を高めるためにも有益に働いた。後に原始形態の宗法制は次第に変化したが、宗法制は依然として、中国社会において大きな影

響力を持っている。宗法制の意味しているものは、父系家族制度である。具体的に言えば、嫡子継承制の実行、即ち正妻の生んだ長子が法定継承人となることである。これは、中国の父系単系世襲原則の普遍的な実行を招いた。所謂父系単系血縁集団とは、世襲の配列において、女性構成員の地位を完全に排除するものである。その他に宗法制の重要な原則は、族外婚であり、族内婚を禁じている点である。宗法制の浸透は家族間（姓を同一とするもの）に強い結束力を生み出し、個々の宗族の間で侵しがたい壁を作り、このことが逆に、自分が属する宗族に対する祖先崇拜の気持ちを強くした。

何十世紀にもわたり宗法制がくまなく浸透した結果、内と外、同姓と異姓、父系と母系の区別が強調されることになる。このことが、たとえ同姓であったとしても、直系と傍系を明確に分けることになる。表5は、父系親族及び本人との遠近関係によって生じた傍系親族の呼称と位置関係を示している。これは親族の呼称において、縦の体系、特に同姓の父系体系に固執していることが反映されたものであり、その次に、傍系親族を適切な位置においたものである。よって上述したように、日本語での「いとこ」が中国語の呼称において、16通り存在するが、日常生活においては、姓が同じでない「いとこ」を呼ぶ際に「表○」の前にくる「姑」「舅」「姨」は省略されることが多い。実生活においては、以下のようなになる。例えば、本人の苗字が「李」であれば、当然父、父の兄弟、父の姉妹の苗字も「李」であり、母及び母の兄弟姉妹の苗字は「林」となる。両親の世代が結婚し各人に子供が生まれると、本人兄弟と叔父の兄弟だけは李姓となり、父の姉妹及び母の兄弟の子供達は皆異なる苗字になる（偶然の一致を除く）。同じ苗字のいとこは「堂○」と呼び、異姓のいとこは「表○」と呼ばれ、「彼は私の“堂弟”だ」と言えば、「彼」は「私」の父親の兄弟の息子であり、「私」より年下で、「私」と必ず同姓である。つまり彼には、父系「李」家の血統を繋いで行く使命が生まれ、他の「表○」のいとこにはそのような使命は生じない。

表2と表4にあるように、日本語の常用語の中には男女を分けない男女長幼を曖昧にした「いとこ」「はとこ」「またいとこ」「ひまご」などの中性的

呼称が見られる。これらの呼称だけでは、この人が男性なのか女性なのかさえも全くわからない。これは、日本人の潜在意識を深く反映している。例えば日本人が孫の誕生を告げる時、「僕に孫ができたよ！」とは言いが、わざわざ「僕に内孫ができたよ！」とは言わない。「僕に孫ができたよ！」からは、孫の誕生を喜ぶ気持ちは感ぜられるが、孫の性別に対する重要性は感じられない。中国人にとっては、“孫子”と“外孫”はどちらも孫という存在に変わりはないが、大きな隔りがある。前者は本人と同姓であり、父系伝承の重要な一人となるが、後者はただ単に可愛い存在でしかない。一人っ子政策が実施されてから、中国では、出生児に男性が多く女性が少ないという男女比のアンバランスが生じた。この原因はまぎれもなく、人々が男の子（自分のファミリーの姓を継承していく人）を願ったからである。老人は孫息子が生まれれば、大宴会を催して喜びを皆で分かち合うが、孫娘が生まれれば、がっかり肩を落とし落胆する。このような文化的背景があり、このような心理的相違がある中国では、「孫」という総称を用い、男女の区別を明確にする呼称を用いないのは、容易には理解できない。日本の場合にも、「内孫」「外孫」の区別があるが、この重要性は中国とは全く異なる。第一に、「内孫」「外孫」は「従姉」「従弟」と同様、表記上は存在するが、実際には簡単に「孫」と呼ぶことが多いからである。第二に、日本では、家督をつぐ子供にできた孫は「内孫」、それ以外を「外孫」と呼ぶ場合と、本人と同じ姓の孫をすべて「内孫」（次男や三男に生まれた孫も含む）、嫁いだ娘にできた孫を「外孫」と呼ぶ場合があり、本人との異姓、同姓とは完全には一致せず、「内孫」「外孫」に宗法意識が含まれていないからである。第三に、「内孫」「外孫」には男女の区別が存在しないからである。

縦の親族関係を強調するもう一つの重要な点は、父系か母系かという問題である。表6では、父系と母系の呼称は、厳格に位置が定められている。それに対し、表7の日本語の呼称は、姻戚の区別に注意が払われていない。「義理」という一言で用が足りている。例えば「義父」「義姉」または「義理のおば」「義理の姪」と聞いただけでは、聞き手は話し手との関係性はわから

ない。わかるのは、本人との血縁関係がないことだけである。話し手が男性だとすると、「義理のおば」には複数の可能性が存在する。日本語の表現に対して、中国語には、父の兄の妻＝伯母、父の弟の妻＝叔母、母の兄弟の妻＝舅母、妻の父の姉妹＝姑丈母、妻の母の姉妹＝姨丈母の5通りの呼称があり、これに姻戚関係が加われば、この範囲はさらに広がる。例えば、妻の父の兄の妻＝伯丈母、妻の父の弟の妻＝叔丈母、妻の母の兄弟の妻＝舅丈母、父の従兄の妻＝堂伯母、母の従姉＝堂姨……。よって、中国人にとっては「義理のおば」という表現が、曖昧であるだけでなく、父系と母系を混在させ、男女長幼をわけない総称となっていることが問題なのである。日本語の父系と母系を分けない考えは、父母の弟を叔父、父母の兄を伯父、父母の姉を伯母、父母の妹を叔母と、父系と母系において同じ呼称で呼ぶ点からも明確である。

この他にも、中国人の厳格な基準から考えると、「おじい」「おばあ」「おじ」「おば」「おい」「めい」にも曖昧な部分がある。これらの呼称では、この人が父系か母系かが、はっきりわからないからである。「あの子は私の姪だよ」と言っても、聞き手は、話し手の兄弟の子供か、姉妹の子供かわからない。

以上の点から、日本語と中国語は、その考え方において大きく異なる、と言える。言うまでもなくその原因は、日本において、古代中国における宗法制度、姓の伝承システムがなかったからに他ならない。

#### 四、世代基準 vs. 年齢基準

“内外有別”を強調し姓氏伝承の一貫性を守ることに以外に、中国語呼称のもう一つの重要な精神は、“長幼有序”を重視することにある。即ち“輩份”（長幼の順序、世代）を基準として成り立っていることである。日本の状況について見てみよう。

『サザエさん』一家はフィクションであるが、国民的長寿番組であり、日本の社会や古き良き日本家庭を表している、と言われる。サザエさん一家を例にとると、タラちゃんはワカメちゃんを「おねえちゃん」と呼んでいるが、

実際ワカメちゃんは、タラちゃんの母サザエさんの妹でおばである。中国人であれば、ワカメちゃんがどれだけ若くて例え赤ちゃんでも、「おば」と呼ばなければならない。仮に「おねえちゃん」と呼んだとしたら、タラちゃんは必ず周りから強い叱責をあげる。これは、仮に母の妹や弟が本人より年下だとしても、「おば」「おじ」と呼ぶこと以外考えられない。厳密な呼称に従い、自分より年下の男性、女性を「おじいちゃん」「おばあちゃん」と呼ぶことさえある。呼ぶ方も呼ばれる方もこれが当然だと思い、違和感は全く無い。逆にそう呼ばなかったとしたら、常識が無いと思われる。日本のようにワカメちゃんがまだ子供だとか、歳が若いから「おねえちゃん」と呼ぶほうが相応しい、という感覚は全く無い。中国において、サザエさん一家のように、通常の年齢差に合わない呼称が存在する状況は、結婚の遅い家庭や、夫妻の年齢の差が大きい家庭では、よく見られることである。古代中国は、一妻多妾制をとり、年齢と世代が逆になることは、日常茶飯事であった。筆者が作った仮想家庭の一例から考えてみよう。

李東海 50 歳		
正妻 49 歳		妾 22 歳
李正徳 30 歳 妻	李正梅 27 歳 夫 (方氏)	李正礼 0 歳
李玉林 8 歳	方春蘭 5 歳	

李玉林と方春蘭は李正礼より年上だが、世代間の序列では、李正礼は李玉林の“叔叔”方春蘭の“舅舅”（おじ）である。日本であれば年齢に従って、李正礼は李玉林を「おにいちゃん」、方春蘭を「おねえちゃん」と呼ぶかもしれないが、中国では絶対に許されない。更にもう一世代後を見てみよう。50年後李正礼が若い妻を迎え、翌年李玉蓮が生まれる。

李正徳 81 歳 妻	李正梅 78 歳 夫 (方氏)	李正礼 51 歳	
		妻 48 歳	妾 30 歳
李玉林 59 歳 妻	方春蘭 56 歳 夫 (王氏)	李玉松 27 歳	李玉蓮 0 歳
李明勤 35 歳 妻	王惠玲 31 歳 夫 (梁氏)	李明儉 5 歳	
李建邦 7 歳	梁巧妹 9 歳		

この時、李建邦は李玉蓮を“姑奶奶”と呼ばなければならないし、梁巧妹は“姨姥姥”（おばあさん）と呼ばなければならない。これは仮に、李玉蓮より年齢が上であってもまったく関係ない。

また李氏一族の名前からは、世代間の序列も容易に見て取れる。李東海は名前に「東」の字が入る“東字輩”であり、李正徳、李正梅、李正礼は、「正」の字が入る“正字輩”、同様に李玉林、李玉松、李玉蓮は“玉字輩”、李明勤、李明儉は“明字輩”、李建邦は“建字輩”である。他人からではこの家族の世代間構成ははっきり分からないが、一族間では名前を聞いただけで、その人の世代序列がはっきりわかる。中国人の意識の中で親戚間の序列は、かなり重要な階級を表すものであり、いい加減に対処できるものではない。もちろん現在の中国は、妾制度が廃止されてからほぼ百年近くになり、李東海や李正礼のような例は、現在では見られないが、歴史の積み重ねによって、現在の中国であっても、世代間序列と年齢が一致しない状況は依然存在する。

世代間序列の概念は、親族呼称の上での規定だけではなく、男女間の関係にも影響を与えている。日本では、遠い親族の男女間に恋愛関係や婚姻関係が生じた時、同じ世代間序列でなくても問題はないが、中国では当事者を始め、周りも全ての人々が不適切な関係だと考え、乱倫だと思われることもある。なぜなら、「世代間序列は重要な構成の原則だからであり、序列は乱してはならないものだからである」<sup>3)</sup>。この組織構造の原則を守るために、まず呼称で親族序列を確認し、覚えておかなければならないのである。今日でも、よほどの勇気がない限り、世代間序列を超えた異なる世代間の恋愛関係は、最初から制限される。日本と中国の違いは、西洋文化を例にとると、よりわかりやすい。西洋文化圏では、親族間でも名前で呼び合うのが普通で、“uncle”“aunt”より、名前で呼ぶ方が親しみを感じる。“He is my uncle-in-law”

3) 原文は「輩份是一個重要的結構原則，它不能被打亂，以免使整個結構受到破壞。對這個原則最嚴重的破壞因素是不同輩份的親屬之間的通婚。為了抵制這種影響，輩份就成了婚姻關係準則中最重要因素。在中國，不提倡某個人與其任何親屬結婚，但如果親屬間一定要通婚，則通婚雙方必須屬於同一個輩份。」馮漢驥『中國親屬稱謂指南』第20-21頁。

と紹介する場合もあるが、相手を“Hi, uncle-in-law”と呼ぶことはありえない。つまり、遠い親戚間の異世代間の恋愛にも全く問題がないことは、日本の状況とほぼ同じである。

また日本でよく子供の視点から自分の母親や姑を「おばあちゃん」と呼び、自分の父親や舅を「おじいちゃん」、自分の姉妹や義理の姉妹を「おばちゃん」と呼び、自分の配偶者を「お父さん」「お母さん」と呼ぶことがあるが、中国ではこれら全ての呼称が適切でないといえられる。これは、世代を混沌とする曖昧な呼称だからである<sup>4)</sup>。

総括すると、中国での親族呼称は、厳密な規則として各自が必ず守るべきものであり、世代間に存在する長幼の序列は、必ず従わねばならないものであり、勝手に変えることは許されない。名称には言語の魔力が備わっており、もし勝手に変えたとしたら、必ずや責を負わされることになり、懲罰の対象となるかもしれない。一方日本では、呼称は親族関係を示し、世代間関係を示す役割を持つが、実用に応じて変化させても差し支えないものであり、中国のような強制力はない。時には、辞書にある呼称を離れ、視点を子供に置いた呼称や、親しみを込めた「○○ちゃん」、義理の姻戚関係では、関係性よりも個人としての呼び名を重視した「○○さん」などの呼び名の方が、社会習慣に合うことがある。表にした親族語彙を見るだけでは、表4と表6は、同じように厳格に、世代間序列が整然と決められており、日中の語彙は一致しているかのようであるが、これは漢字表記の借用による表面的な一致であり、実際に使われる場面においての意識の隔たりは大きく、本質的な価値の重さはまったく異なる。それに対して、日英の語彙は表面的には全く異なるが、実際に使用される場面や意識及びその考え方においては、一致する側面がある。

<sup>4)</sup> 中国の天津一帯にはこのような習慣があるが、これは、一地方における現象であるため、民族すべてにおいて許容される習慣ではない。

## 五、まとめ

日本語と中国語の親族呼称は、漢字表記において、一致または類似しているものがあるが、日本語は中国語親族呼称の中身に含まれる精神を十分継承することはなかったが、これは不思議なことではない。なぜなら、中国語の親族呼称システムができあがったのは、古代の宗法制に由来する。日本にはこのような制度はなかったし、宗法制度の重要な一面である姓の継承システムの姓そのものについても、一部の特殊な地位や立場にいた者を除けば、継承の歴史が浅く、江戸時代では武士以外に苗字帯刀を許された例は少なく、明治になり苗字を名乗らなければならなくなった時に、地名に由来するなど、多くの庶民の姓は適当につけられたものも多い。このように、ある意味、適当にもたらされた姓から、どうして中国の宗法制度、姓の伝承システムと深く結びついた、親族呼称が持つ中身や精神的な重さ、深さを受けつぐことができるであろうか。

以上のように、日中二者の親族呼称は表面的な漢字表記から考えると、日中二者には同一性が高く、日英二者では全く異なると捉えられがちだが、その中身や精神にまで及ぶと、本質的には日中での隔たりが大きく、日英では、その隔たりが小さいことがわかる。

日本語の親族呼称は和語であり、漢字で表記されることもあるが、中国語から大きな影響は受けず、中国文化の精神の継承が、大いになされた形跡も見られない。表面的な漢字表記において日中は似通っているが、本質的な精神面において、日本語は英語などの西洋諸国言語に近い。仮に漢字伝来前に、日本独自の表記が存在するか、ローマ字表記法が伝来していたら、つまり日本語が漢字を借用しなかったら、語彙の一致と文化の一致が同じであるような安易な結論は生じなかったであろう。但し、表意記号として漢字を使用する性質上、日本語に中国語の影響が全く受けなかったとも言えない。例えば、「いとこ」を「従兄」或いは「従妹」「従姉妹」「従兄弟」と表記し、「おじ」を「伯父」「叔父」、「まご」を「孫」「外孫」などと表記する時、中国文化の影響がある程度働いたとも言えるが、中国人と比べると、その意識の程度は

明らかに脆弱である。

一般的に言えば、異なる言語間において類似点が存在するのであれば、言語の本質的な所で共通する面があるはずだが、日本語と中国語は、和語の特殊性から、日中親族呼称の類似点は、親族意識の共通性に端を発しているのではない。或いは、言い換えれば、日中二者の距離は相当大きいと言える。よって、日中親族呼称語彙を比較するには、まず日中二者の本質面を意識することから始めるべきであり、その上で、日中親族呼称の本質面を、二者の異同を探求するための前提条件とみなす必要がある。

#### 参考文献

鮑海濤他『親族称呼辞典』長春、吉林教育出版社 1988 年 8 月

韓省之他『称呼大辞典』北京、新世界出版社 1991 年

劉超班他『中華親属辞典』武漢、武漢出版社 1991 年

吉常宏他『中国語称呼大辞典』石家莊、河北教育出版社 1994 年 2 月

胡士云『中国語親属称呼研究』北京、商務印書館 2007 年 9 月

馮漢驥『中国親属称呼指南』徐志誠訳、上海、上海文芸出版社 1989 年 12 月

徐朝陽『中国親属法溯源』台北、台湾商務印書館 1973 年

尾藤正英『中国文化叢書 10 日本文化と中国』東京、大修館書店 1968 年

瀬川昌久『中国社会の人類学：親族・家族からの展望』東京、世界思想社 2004 年

井上徹『中国の宗族と国家の礼制—宗法主義の視点からの分析』東京、研文出版 2000 年 2 月

梅棹忠夫他『日本語大辞典（第二版）』東京、講談社 1995 年 5 月

渡邊敏郎他『新和英大辞典』（第 5 版）東京、研究社 2003 年 7 月

表1 日中英主要親族呼称対照表 I

中国語	日本語	英語
高祖父 高祖母	高祖父 高祖母	Great-great-grandfather Great-great-grandmother
曾祖父 曾祖母	曾祖父 曾祖母	Great-grandfather Great-grandmother
祖父、祖母	祖父、祖母	Grandfather, Grandmother
父、母	父、母	Father, Mother
兄、姐 (自己) 弟、妹	兄、姉 (自分) 弟、妹	Brother, Sister (自分)
子、女	息子、娘	Son, Daughter
孫子、孫女	孫	Grandson, Granddaughter
曾孫、曾孫女	曾孫	Great-grandson, Great-granddaughter
玄孫、玄孫女	玄孫	Great-great-grandson, Great-great-granddaughter

表2 日本語常用親族呼称一覧

おじい おばあ		おじい おばあ	
おじ・おば (義理の) おじ・おば	父	母	おじ・おば (義理の) おじ・おば
いとこ いとこの 嫁・婿	兄 義理の姉 弟 義理の妹	自分・妻／夫	姉 義理の兄 妹 義理の弟
	甥 甥の嫁	息子 嫁	娘 婿
	姪 姪の婿	内孫 孫の 婿・嫁	甥 甥の嫁
		外孫 孫の 婿・嫁	姪 姪の婿

表3 中国語主要親族呼称一覧

爷爷・奶奶						姥爷・姥姥					
伯伯・伯母 叔叔・婶子		姑姑・姑父		爸		妈		舅舅・妯子		姨姨・姨父	
堂哥 · 堂嫂 · 堂弟 · 堂弟媳	堂姐 · 堂姐夫 · 堂妹 · 堂妹夫	姑表哥 · 姑表嫂 · 姑表弟 · 姑表弟媳	姑表姐 · 姑表姐夫 · 姑表妹 · 姑表妹夫	哥 · 嫂 · 弟 · 弟媳	自己 · 妻/夫	姐 · 姐夫 · 妹 · 妹夫	舅表哥 · 舅表嫂 · 舅表弟 · 舅表弟媳	舅表姐 · 舅表姐夫 · 舅表妹 · 舅表妹夫	姨表哥 · 姨表嫂 · 姨表弟 · 姨表弟媳	姨表姐 · 姨表姐夫 · 姨表妹 · 姨表妹夫	
堂侄 · 堂侄女 · 堂外甥 · 堂外甥女 · 堂外甥女婿	堂侄女 · 堂外甥 · 堂外甥女 · 堂外甥女婿	姑表侄 · 姑表侄女 · 姑表侄女婿	姑表外甥 · 姑表外甥女 · 姑表外甥女婿	侄子 · 侄女 · 侄媳	子 · 女 · 媳 · 女婿	外甥 · 外甥女 · 外甥媳	舅表侄 · 舅表侄女 · 舅表侄女婿	舅表外甥 · 舅表外甥女 · 舅表外甥女婿	姨表侄 · 姨表侄女 · 姨表侄女婿	姨表外甥 · 姨表外甥女 · 姨表外甥女婿	
				侄孫 · 侄孫女 · 侄外孫 · 侄外孫媳	孫子 · 孫女 · 外孫 · 外孫女 · 外孫媳	甥孫 · 甥孫女 · 甥孫媳	甥外孫 · 甥外孫女 · 甥外孫媳	甥外孫 · 甥外孫女 · 甥外孫媳			

表4 日本語直系・傍系親族一覧

世代	直系	傍系		
		+ 1	+ 2	+ 3
- 4	男：高祖父 女：高祖母	高祖父母の兄：高祖伯父 高祖父母の弟：高祖叔父 高祖父母の姉：高祖伯母 高祖父母の妹：高祖叔母		
- 3	男：曾祖父、 ひいおじい 女：曾祖母、 ひいおばあ	曾祖父母の兄：曾祖伯父 曾祖父母の弟：曾祖叔父 曾祖父母の姉：曾祖伯母 曾祖父母の妹：曾祖叔母		
- 2	祖父、おじい 祖母、おばあ	男：おおおじ 女：おおおば	男：いとこおおおじ 女：いとこおおおば	
- 1	総称：親 男：父 女：母	男：伯父、叔父、おじ 女：伯母、おば	総称：いとちが 男：いとこおじ 女：いとこおば	
0	本人	総称：きょうだい  年上男：兄 年下男：弟 年上女：姉 年下女：妹	総称：いとこ  年上男：従兄 年下男：従弟 年上女：従姉 年下女：従妹	総称：はとこ、 またいとこ 年上男：再従兄 年下男：再従弟 年上女：再従姉 年下女：再従妹
+ 1	総称：子 男：息子 女：娘	男：甥 女：姪	総称：いとちが 男：従甥 女：従姪	
+ 2	総称：孫 男：孫息子 女：孫娘	総称：姪孫 男：又甥 女：又姪	総称：従姪孫	
+ 3	総称：曾孫	総称：曾姪孫		
+ 4	総称：玄孫	総称：玄姪孫		
+ 5	総称：来孫			

(<http://www.sf.airnet.ne.jp/ts/language/kinship.html> 2016年5月10日「高杉親知の日本語内省記：親族名称の比較」を参考に、筆者により一部変更を加えた)

表5 中国語現代親属制的旁系劃分（馮漢驥『中国親属称呼指南』より）

直系	第1旁系	第2旁系	第3旁系	第4旁系
高祖父 高祖母				
曾祖父 曾祖母	曾伯祖父 曾叔祖父			
祖父 祖母	伯祖父 叔祖父	堂伯祖父 堂叔祖父		
父 母	伯父 叔父	堂伯父 堂叔父	再従伯父 再従叔父	
己身	兄 弟	堂兄 堂弟	再従兄 再従弟	族兄 族弟
子	侄	堂侄	再従侄	
孫	侄孫	堂侄孫		
曾孫	曾侄孫			
玄孫				

表6 中国語現代親族制輩份劃分 (馮漢驥『中国親属称呼指南』より)

源自父系女性親属之世系				源自父系男性親属之世系				
				直系				
第4旁系	第3旁系	第2旁系	第1旁系	高祖父 高祖母	第1旁系	第2旁系	第3旁系	第4旁系
			曾祖姑父 曾祖姑母	曾祖父 曾祖母	曾伯祖父 曾伯祖母			4
		表祖父 表祖母	姑祖父 姑祖母	祖父 祖母	伯祖父 伯祖母 叔祖父 叔祖母	堂伯祖父 堂叔祖父 堂姑祖母		2
	堂表伯父 堂表叔父 堂表姑母	表伯父 表叔父 表姑母	姑父 姑母	父 母	伯父 伯母 叔父 叔母	堂伯父 堂叔父 堂姑母	再從伯父 再從叔父 再從姑母	1
再從表兄 再從表弟 再從表姊 再從表妹	堂表兄 堂表弟 堂表姊 堂表妹	表兄 表弟 表姊 表妹	姊 姊夫 妹 妹夫	己身	兄 嫂 弟 弟媳	堂兄 堂弟 堂姊 堂妹	再從兄 再從弟 再從姊 再從妹	族兄 族弟 族姊 族妹
	堂表侄 堂表侄女	表侄 表侄女	外甥 外甥女	子 女	侄子 侄女	堂侄 堂侄女	再從侄 再從侄女	1
		表侄孫	外甥孫	孫 孫女	侄孫 侄孫女	堂侄孫 堂侄孫女		2
			外甥曾孫	曾孫 曾孫女	曾侄孫 曾侄孫女			3
				玄孫 玄孫女				4

表7 日中英主要親族呼称対照表Ⅱ

中国語		日本語	英語
高祖父	外高祖父	高祖父	Great-great-grandfather
高祖母	外高祖母	高祖母	Great-great-grandmother
曾祖父	外曾祖父	曾祖父	Great-grandfather
曾祖母	外曾祖母	曾祖母	Great-grandmother
祖父	外祖父	祖父／おじい	Grandfather
祖母	外祖母	祖母／おばあ	Grandmother
伯父、叔父	舅父	伯父、叔父／おじ	Uncle
姑母	姨母	伯母、叔母／おば	Aunt
姑父	姨父	(義理の) おじ	Uncle-in-law
伯母、叔母	舅母	(義理の) おば	Aunt-in-law
嫂		(義理の) 姉	Sister-in-law
弟媳		(義理の) 妹	
姐夫		(義理の) 兄	Brother-in-law
妹夫		(義理の) 弟	
堂兄	表兄	従兄弟／いとこ 従姉妹／いとこ	Cousin Female cousin
堂姐	表姐		
堂弟	表弟		
堂妹	表妹		
侄子	外甥	甥／おい	Nephew
侄女	外甥女	姪／めい	Niece
孫子	外孫	孫息子／まごむすこ	Grandson
孫女	外孫女	孫娘／まごむすめ	Granddaughter
曾孫	外曾孫	曾孫／ひまご	Great-grandson
曾孫女	外曾孫女	曾孫／ひまご	Great-granddaughter
玄孫	外玄孫	玄孫／やしゃご	Great-great-grandson
玄孫女	外玄孫女	玄孫／やしゃご	Great-great-granddaughter